

## つくば市における歩行行動の特性と歩行環境評価

## Characteristics of Walking activity and Walkability evaluation in Tsukuba City

# 浅井 崇俊 [1]; 村山 祐司 [2]

# Takatoshi Asai[1]; Yuji Murayama[2]

[1] 筑大・生命・空間; [2] 筑波大・生命環境

[1] Spatial Information Science, Tsukuba Univ; [2] Univ. Tsukuba

### 1. 研究目的

近年の健康志向の高まりを受けて、歩行行動の重要性が増してきている。しかし従来の研究において、「歩行行動」や「歩行環境」は「生活行動」、「生活環境」という広い概念の一つの要素として扱われており、「歩行」のみに着目した研究はあまり見られなかった。そこで、本研究では、歩いて暮らせる街として計画的に整備された、茨城県つくば市を対象として、居住者の歩行行動の特徴を明らかにするとともに、居住者の周辺環境に対する評価や満足度と、客観的に表せる周辺環境の項目との関係性について解明を試みた。

### 2. 研究方法

まずアンケートおよび聞き取り調査により得られたデータから、居住者の歩行行動や散歩行動の特徴をとらえた。次に、欧米等で歩行環境の評価基準として使用されている ANEWS に基づき選定した、12 の周辺環境項目に対する居住者の評価値と、歩行環境に対する総合的な満足度の関係を明らかにした。さらに、正準相関分析により、居住地周辺環境項目との関係性をみた。なお、周辺環境項目は、居住地から道路距離で 500m 内の範囲内の道路や土地利用、その他の社会・経済的指標等の値を算出したバッファ内指標と、生活関連施設への最短距離を求めたアクセシビリティ指標の 2 つの方法で算出した。

### 3. 結果・考察

居住者の歩行行動は、その性質の違いから、主に無職者・高齢者による日常生活での歩行行動と、就業者による休日の散歩行動に分けられる。また都市部（学園都市内部）と周辺部では、歩道整備や生活関連施設への近接性など、居住地の周辺環境の違いにより、歩行行動の目的やルートに差異が存在する。

散歩行動の特徴として、健康増進が目的の 6 割を占めること、多くの居住者が、主目的が買い物であっても、「散歩」を目的の 1 つとして認識していること、ペットの存在が散歩を習慣化させる要因となっていること等が挙げられる。また、歩行ルートは、行動時の安全性・快適性（景観等）が重視され、行動範囲の環境の違いによりルートに差異が生じている。

居住者の歩行環境に対する総合的な満足度は、道路や歩道整備に関する項目や景観・緑の多さを示す項目と高い相関関係を示す。これは居住者が優れた歩行環境として、道路の安全性や快適性を重視していることを示しており、実際の歩行行動にも歩道や緑の多い道路を意図的に選択するという形で表れている。

多様な生活関連施設に対する近接性と歩道整備に関する評価が、都市的活動を示す因子群との結びつきが強いという正準相関分析の結果から、都市的機能を示す周辺環境項目（バッファ内の歩道延長が長い、生活関連施設までの近接性が高いなど）の値が高いほど、居住者にとっての歩行環境満足度が高い、つまり歩行環境の優れた地域といえる。また満足度が高い地域では、余暇的な歩行行動である散歩行動も活発に行われる。

つくば市において歩行環境の優れた地域は、学園都市内部の地域、特につくば駅の北東部から南東部の公務員宿舎の密集する地区である。この地区では身近に緑豊かな歩行者専用道路が整備され、公園や多様な生活関連施設に安全かつ快適、そして比較的短時間でアクセスすることができるとともに、居住地周辺には緑が多く残存しているため、「歩く機会」、「歩きやすさ」、「歩くときの快適性」から考えて、歩行環境が優れているといえる。